

# Web 会議システム(V-CUBE ミーティング)の活用

学術研究部 都市デザイン学系 教授 布村 紀男

総合情報基盤センターが提供している遠隔授業支援(テレビ会議)システムサービスを授業以外で、研究打ち合わせや報告会で利用した事例について紹介する。

キーワード：Web 会議，クラウド型サービス，テレビ会議，画面共有

## 1. はじめに

2020年3月25日から日本国内で次世代通信規格5G商用サービスが開始され、スマートフォンをはじめとしたモバイル通信は、大容量・高速化が実現される。そんな中、情報通信技術(ICT)を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方としてテレワークにも関心が高まっている。富山大学では、以前から総合基盤センターが遠隔授業支援(テレビ会議)システムサービスを提供されている。本稿では授業利用以外での研究打ち合わせと報告会の利用事例の一部を紹介する。

## 2. 共同研究の打ち合わせ利用

研究打ち合わせの事例として、九州大学、日本原子力研究開発機構(JAEA)、富山大学の3拠点間でのJSTヘテロプロジェクト「水素分配制御によるアルミニウム合金の力学特性最適化」2015~2020の研究打ち合わせの利用を挙げる。当初はH323規格テレビ会議装置のPolycomで行う予定であった。しかし、事前の通信テストでうまくいかなかった。双方でFirewall設定を十分に確認し、再度テストしても状況は変わらなかった。幸いなことに総合情報基盤センターでは遠隔授業支援システム(V-CUBEミーティング4)を運用していたので、そちらに切り替えてみたところ、一時的に音声聞き取れない状況や映像が静止画となるといったトラブルにも見舞われたが、それでも十分に遠隔システムで3拠点間の研究打ち合わせが開催できた。

V-CUBEミーティング4では専用アプリケーションのインストールは不要で、Webブラウザから利用できる。会議中の機能としては、他の参加者と画面共有するデスクトップ共有、ホワイトボード、アプリケーション共有があり、会議資料の共有・説明するには十分な機能である。操作性も楽なので、初めて使用する場合でもそれほど苦にならなかった。ただ

問題点として、ファイル転送(アップロード)するファイル容量の大きさに注意しないと途中で止まってしまうことがあった。さらにPDFファイル閲覧時に表示の一部不具合が見られた。これはシステム側の仕様の可能性が高いがそれほど問題にならない。

2019年3月に更新された遠隔システム(V-CUBEミーティング5)では、これまで仮想サーバ上で稼働していたものからクラウド型サービスに変更された。接続もインストールアプリ版、ブラウザ版が選択できるようになっている。これまでの画面、メニューなども更新されたので若干戸惑いもあるが、何度か使っていくうちに慣れていくと思う。

## 3. インターンシップ報告会での利用

工学部材料機能工学科では、国際交流しているノルウェー科学技術大学(NTNU)から富山の企業で国際インターンシップを行うNTNU学生を引き受けている。インターンシップのNTNU学生、企業担当者、そしてNTNU側教授陣との進捗報告会を遠隔システム(V-CUBEミーティング4,5)で行った。

富山大学とノルウェーNTNUとの会議は時差の関係で日本時間の夕方17:00~1時間程度、開催していた。会議は英語で行われ、多言語対応のV-CUBEミーティングでは問題なく操作ができていた。

学内の仮想サーバで運用していた時に比べてクラウド型サービスに変更後は、遠距離の海外との接続でも音声・映像の遅延やトラブルはほとんど発生することが無く利用できている。

## 4. おわりに

今後、遠隔システムは、遠隔授業支援や会議に限らず、多彩な利用が考えられる。現状では、会議室の数および接続クライアント数に限りがあるためその点を考慮して使う必要がある。しかし、他Webシステムやビデオ会議システムと連携できれば、より時間や場所を有効に活用できると思う次第である。